

すみなれし宮居こひしく思ふかな

この新室もうれしけれども

(明治天皇 御製)

この御製は明治天皇が青山御所から新宮殿に移られた時のものである。春は出会いと別れの季節である。この春から環境が変わる方も多くいらっしやるだろう。新たな出会いに感謝し、大いに輝いていただきたい。

さて話は変わるが、ジョンレノンを「存知ない方は少ないと思う。ビートルズのリーダーであり、言わずと知れたロックの世界の神様の一人である。親日家としても知られ、「イマジジン」という曲は神道の世界に感銘を受けたことによつて生まれたとも言われている。

そんな親日家のジョンがオリジナルの日本語の教科書を作つて日々日本語を勉強していたことは「存知であらうか。日本語をローマ字で記し、使用する場面をユーモア溢れる絵で描いて勉強していたそう。多くの日本語を覚えたジョンであったが、そんなジョンが「世界でもっとも美しい言葉」と評した日本語がある。それは「お陰様」である。

「お陰様」とは現在あいさつの一つとして使われている言葉であるが、昔から「陰」とは神仏など偉大なものの陰によつて守られ、その庇護を受ける意味として使われてきた。その「陰」に対する感謝の意から、「お陰様」という言葉となったのである。つまり本来であれば「お陰様」であるが、先にも記したようにあいさつの一つとなっている。なぜこのような使われ方となったのであろうか。それは日本人の「神」というものの考え方に由来するのであろう。「八百万の神」と表現されることの多い日本の神々であるが、つまるところ日本人は自然、社会、祖先そして隣人といった、ありとあらゆるものに「神」を感じる民族なのである。その民族性に加え、浄土教の「他力本願」の考え方が結びつき、「〇〇さんのお陰で」とか「この仕事のお陰で」という言葉が使われるようになったのであろう。

ジョンはこの日本人の「ありとあらゆるものに『神』を感じる」という感覚が新鮮であり、琴線に触れたようだ。一神教の宗教の下ではこのような感覚になるのは難しいだろう。キリスト教国の出身であるジョンだからこそ、身近なものに神を感じ、感謝の気持ちを伝える「お陰様」という言葉の素晴らしさを強烈に感じる事ができたのかも知れない。

冒頭でも触れているが、ジョンの代表曲の一つである「イマジジン」の二番は次のような歌詞から始まっている。

『そして、宗教もない』

『そして、宗教もない』

ここで言う宗教とは英語の「レリジョン」にあたり、「縛る」という意味のラテン語の「レリギオ」が語源のもので

ある。つまり宗教とは厳しい戒律によつて人々を「縛る」という意味を内在したものである。さらに言えば、その戒律に縛られない者を異教徒として排除する排他性も持ち合わせている。その結果、宗教間の争いによつて失われた命は数知れない。

そのような宗教に対して、神道には人々を縛る戒律は存在しない。つまり、「縛る」という言葉が語源の「レリジョン」と神道は一線を画すものである。さらに、あらゆるものに「神」を感じる信仰だからこそ、寛容であり、排他的な面を持ち合わせていない。神道に感銘を受けたジョンが「イマジジン」で訴えたいことはここにあるのだろう。「モッタイナイ」という言葉がケニアのワンガリ・マタイさんによつて世界に広められた。これも日本人の心、神道の心である。「モッタイナイ」だけでなく、「オカゲサマデ」という言葉とともに、神道の精神が世界に広まることで「イマジジン」の歌詞の訴える平和な世界に、少し近づくことができるのではないだろうか。

今回の内容は加瀬英明著、『ジョンレノンはなぜ神道に惹かれたのか』(祥伝社新書)を参考にしました。筆者の経験を織り交ぜながら語られる一神教と神道との比較は、神道を知る入口となると思います。よろしければ「一読ください」。

## 行事予定

◎四月七日(日) 正午より 光神祭

\*新しいお宮もお頒ちいたします。ご希望の方はお問い合わせください。

◎四月二十八日(日) 十一時より 交通安全祈願祭

◎五月十二日(日) 正午より 月例祭

\*五月の月例祭は、連休の混雑を避けるために第一日曜日に行います。ぜひご参拝ください。

### 一・二月の神事

お正月は、皆様にご奉納いただいた大鏡餅をお供えし、華やかな御神前で迎えることができました。

二月三日(日)には節分祭を斎行いたしました。五年ぶりの日曜日ということもあり、大勢の方がご参拝くださり賑々しく執り行うことができました。

